

◇主要事業の概要

<p>主要事業①</p>  <p>現在の越前市役所(上)、 新庁舎配置イメージ(下)</p>   <p>市民ワークショップの開催状況</p> 	<p>事業名:新庁舎建設事業(交流施設)</p> <p>実施時期:平成 26~32 年度 (基本構想・基本計画:H26~H27、基本設計・実施設計:H27~28、施工:H29~32)</p> <p>(事業概要等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 27 年 9 月に策定した、本庁舎建設基本構想・基本計画を基に、平成 32 年度までに本庁舎を建設する。 本庁舎の基本理念を「まちの活性化とまち空間再生の大きな契機とする」とし、その実現を図るためイメージコンセプト「人をつなぎ歴史をつむぐ賑わい・交流の場」を基に、庁舎の行政機能以外に市民利用機能施設を整備し、賑わい・交流の場を整備する。 <p><u>交流施設</u> A=1,700m²</p> <ul style="list-style-type: none"> 屋内イベント機能や市民協働機能として、多目的ホールなどを整備 ギャラリー(展示)、学習機能として、オープンスペース・研修室などを整備 市民ふれあいの機能として、ロビー(庁舎待合ロビー兼用)や福祉カフェ等を整備 <p><u>交流広場</u></p> <ul style="list-style-type: none"> シンボルロード(庁舎前)と連携し、イベント対応可能な交流広場を整備。
---	---

<p>主要事業②</p>  <p>計画平面図</p>  <p>建替えとなる体育館のイメージ</p>  <p>市民の広場の整備イメージ</p>	<p>事業名:武生中央公園再整備事業</p> <p>実施時期:平成 26~30 年度</p> <p>(事業概要等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 武生中央公園は昭和 46 年の供用開始以来、市民のスポーツの場、レクレーションの場として利用されており、また、市を代表する秋のイベントである「たけふ菊人形」の会場として、県内外から多くの観光客が訪れる場となっている。 平成 30 年開催の福井国体のフェンシング競技とソフトテニス競技の会場となっていることから、老朽化した中央体育館の建替えとテニスコートの改修を行うとともに、公園全体の再整備を行う。 「市のセントラルパークとして、老若男女が、憩う・遊ぶ・見る・学ぶ・楽しむことのできる空間の形成」を整備方針とする再整備基本計画を平成 26 年 3 月に策定し、平成 30 年の完成を目指し整備を進めている。 本市出身であり日本を代表する絵本作家である「かこさとし」氏の監修を得ながら、子供たちの健全な成長の場と次世代を担う人材が育つ拠点とする。 旧野球場跡地に整備する「市民の広場」には、子供たちに大変人気のあり、県内最大級のワイドライダーを有する大型コンビネーション遊具や同じく大変人気のあるトランポリン系の遊具を設置する。 また、子供達が水と触れ合うことが出来る親水広場やせせらぎ広場、さらにステージとしても利用出来る葉っぱの形をしたデッキを設け、屋外の読書広場として整備するとともに、高齢者等の健康の維持増進に繋がることで人気がある健康遊具も設置する。
--	--

主要事業③



北府駅本屋（登録有形文化財）



電車がモチーフの案内板



200形車両



市民団体主催のイベントの様子(下)

事業名:北府駅鉄道ミュージアム整備事業

実施時期:平成29~32年度

(事業概要等)

概要

北府駅構内には、福井鉄道の歴史に触れることのできるギャラリーがあり、駅前には電車がモチーフの案内板等が設置されていて、駅全体が簡易な博物館となっている。これらに加えて、貴重な鉄道文化財である、福井鉄道の200形車両を北府駅周辺に保存展示するなど、北府駅周辺を鉄道ミュージアムとして整備することで、北府駅がまちなか観光の北の玄関口として魅力を高め、中心市街地の活性化や福武線乗車人数の増加に繋げる。

現状

- ・北府駅構内には、福井鉄道の歴史に触れることのできるギャラリーがある。
- ・駅前には電車がモチーフの案内板等が設置されている
- ・駅周辺では、北府駅本屋、車両工場、バス車庫が国の有形文化財に登録されている。

将来展望

- 北府駅周辺を鉄道ミュージアムとして整備する。
- ・200形車両の動態もしくは静態での保存
- ・かこさとし氏と連携した、キャラクター遊具を設置し、広場(ミニ公園)を整備

主要事業④



工芸の里構想(セントラル地区)



建物前面の景観・しつらえの見直し
ギャラリー空間のリニューアル



タンス町で開催されたイベントの様子
(昭和の花嫁行列)

事業名:工芸の里構想推進事業

実施時期:平成27~31年度

(事業概要等)

越前和紙、越前打刃物、越前筆筒の3つの伝統的工芸品が集積する越前市において、本市の特性を生かし伝統工芸の振興策について新たな方向性を示すとともに、3産地の連携による交流人口の拡大を進め、地域振興を図ることを目的に工芸の里構想を推進する。
3産地のうち中心市街地のタンス町通りに集積する越前筆筒(指物)産地をセントラル地区と称し、工芸の里構想では、「タンス町通りを越前筆筒(指物)の展示場として、歴史・文化を活かしたまちづくりを進める。」

具体的な事業例として、

- ・元来、タンス町通りは、越前筆筒(指物)の展示場であり、家具を求める人々が集まってくる場所であったことから、タンス町通りの筆筒店の魅力向上を図るとともに、越前筆筒祭り(仮称)を開催するなど、展示場としての機能を強化し産業振興の発信拠点とする。
- ・タンス町通りの筆筒店の魅力向上を進めるため、建物前面の景観・しつらえを見直すとともに、ギャラリー空間のリニューアルを図る。(改装、設備投資に対し支援)
- ・後継者の確保、育成を進めるために、タンス町通りに新たに工房を構える際に支援を行い、筆筒店の集積を図る。
- ・タンス町通りにおいて、越前筆筒祭り(仮称)を開催し、市内外から伝統工芸や家具に関心のある層を集める。さらに伝統的な花嫁行列等を実施することにより、越前筆筒祭りの発信力を高め、ブランド向上を図り新規顧客獲得を目指す。

※事業実施主体:越前指物組合(青年部)、市(事業支援)

※事業実施期間:平成27年度から平成31年度
(工芸の里構想重点実施期間)

主要事業⑤



【空き家・空き店舗をコミュニティ活動の場に活用(例)】



【民家を改装し食堂として活用(例)】



【蔵の辻でのイベント風景】



【イルミネーションマップ】



【得する街のゼミナール】

事業名:商業活性化プランに基づく一連の事業

実施時期:平成 28~33 年度

(事業概要等)

- ・平成 28 年 2 月に、まちづくり武生(株)、まちなかの商店街等の民間事業者により、商店街活性化プランを策定した。
- ・商店街活性化プランに基づき、平成 28 年度から平成 33 年度にかけ、以下の民間事業者が主体となった活性化事業を展開する。

<ソフト事業>

- ①商店主意識調査
(ファサード等整備事業や空き店舗対策事業等の取組事業の合意形成を図るため)
- ②空きスペース活用事業
(空家・空き店舗改装、サブリース、空家・空き地・空き店舗、軒先等の交流の場・活動等の場としての活用、データベース化による空き店舗情報の定期的発信等)
- ③まちなか回遊事業
(まち歩きマップ、まち歩きツアー、寺社巡りスタンプラリー、ウォーキング応援キャンペーン、店のトイレの案内板等)
- ④街の魅力を活かした連動イベント
(市とのタイアップ、総社等の行事に合せた連動イベント、食のイベント等)
- ⑤個店の魅力アップ事業
(まちゼミ(継続)+繁盛店づくり事業(新規))

<ハード事業>

- ①総社通り商店街ファサード等整備事業
(アーケード撤去、景観に合わせたファサード整備)
- ②京町界隈の空き家再生事業
(うるしや周辺・町家の改修とテナント誘致)
- ③総社表参道空き家再生事業
(総社表参道の街並み整備)

◇関連事業の概要

関連事業①



【JR武生駅前にある民間病院】



事業名:民間病院建替事業

実施時期:平成 27~31 年度

(事業概要等)

中心市街地において、長年良質な医療を提供してきた民間病院が現在地付近での建替を計画している。

賑わい・交流機能が新たに整備される新庁舎に近接し、建替事業が同時期に進められることから、周辺道路の改良整備を行うなど、官民連携で誰もが健康で安心して”いきいきと暮らせるまちづくり”を推進する。

【病院の概要】

開設 大正 2 年(創立 100 周年)

病床数 216 床

診療科 整形外科、外科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、形成外科、内科、消化器科、循環器科、呼吸器科、神経内科、リウマチ科、泌尿器科、眼科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科

診療実績(平成 26 年度) 外来患者数 98,187 人
救急搬入数 1,082 件
手術件数 1,368 件

【病棟建替の経緯】

中心市街地活性化において、極めて重要な施設であり、老朽化した建物は、耐震化などが課題となっている。